

- 1 派遣期日 平成28年11月17日（木）～11月18日（金）
- 2 研修先 学校名 神奈川県横浜市立仲尾台中学校
所在地 神奈川県横浜市中区仲尾台23
<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/nakaodai/>

3 研修内容

（1）研修テーマ 「明日を育む造形活動」

（2）研修選定の理由

子どもたちの自己有用感を高めながら、自らの生き方を見つめ、豊かに生きる自分を切り拓くための造形教育の在り方について学ぶべく、本研修を選定した。

（3）実践事例

① はじめに

平成28年度関東甲信越静地区造形教育研究大会神奈川県大会の大会テーマは、「感じる・つくる・生きる ～今をみつめ明日を育む造形活動～」である。これからの未来を豊かな心でたくましく生き抜く子どもたちを育むために、改めて造形教育の大切さとは何かを問うべく、本テーマは設定された。また、中学校では「…きめた。わたしがわたしをつくるとき」という校種別テーマのもと、仲尾台中学校を会場にさまざまな授業が行われた。



② 基本的な考え方

造形活動において、子どもたちは、材料をはじめ様々な対象に関わり、完成を働かせながら、自分なりの意味や価値をつくり出すことで、豊かな情操を養っていく。そこに、子どもの命輝く姿の実現があり、「つくること」はすなわち「生きること」そのものであると考える。その中でも造形教育で連続して行われる「感じる」「つくる」営みを私たちがどうデザインするか、ということが大切である。子どもたち一人一人が、形や色に関心を寄せながら、心ときめき、自分を見つめ、自分で決め、自分らしく新たに作り出す造形活動そのものが、豊かに生きる自分を切り拓いていくことにつながる。出会う「もの・こと・人」すべてが自分を豊かにしてくれるような出会い、経験を数多くさせることが大切である。

③ 公開授業参観

ア 題材名「2020年、私が運ぶ聖火のトーチ ～炎を入れたい形を表す～」

イ 題材名「私は空間デザイナー ～スロープを心安らぐ空間に～」

ウ 題材名「味覚を視覚に オリジナル飲料のパッケージデザイン」

エ 題材名「YOKOHAMA時空探索！ ～横浜を想う～（鑑賞）」

オ 題材名「紋様は巡る ～美術文化理解への入口～（鑑賞）」

カ 題材名「今の私、になりたい私 ～私の心を写す～」(第3学年)

- ・自分自身の内面を見つめ、今感じていることや、未来に思い描くことを主題として身近な素材や出会った素材を生かし、思いつくままに描いていくことで発想力を引き出す活動を行い、それらの中で取捨選択を繰り返し、より相応しい表現方法を見つけ自己決定していくことで、表現したい主題に迫る力を育てる授業である。この活動の後、「自画像」の制作につなげる。

- ・生徒たちは汚れないよう防護服を着用し、思い思いに絵の具をまき散らしたり、用具を利用したりして、「自己の内面」を表現しようとしていた。
- ・中学校での造形遊びは、意味や目的を考えながら行為に迫っていくところが小学校図画工作の造形遊びとは違っていた。
- ・絵の中には言葉では明確に表すことができない部分があり、それを表現するのが美術であることを実践していた。
- ・「自画像」を自己表現として「自我像」、「自己像」として捉えているところもあった。



④ 講演「明日を育む造形活動」

講師：文部科学省初等中等教育局教育課程教科調査官兼国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官 岡田京子，東良雅人

ア 美術への関心・意欲・態度について

- ・友達の活動を見る時間は発想をふくらませ、試行錯誤しながら納得のいくものをつくることで成長につながる。
- ・題材名は題材と向き合う最初の扉であり、子どもの関心を高める工夫が必要。

イ 発想・構想の能力について

- ・表現（１）と（２）のどちらを身に付けたいかを明確化し、教師が考えをぶらさない。
- ・生徒自らが強く表したいことを心の中に思い描くことが大切。

ウ 創造的な技能について

- ・中学校では、小学校での材料や用具、道具の体験を生かす。
- ・「学習のねらい」というゴールを明確にしておき、子どもたちがさまざまな手段でねらいに迫れるようにすることが大切である。

エ 鑑賞の能力について

- ・自分以外の作品を見るときには「答えがある」と思い込んでしまう傾向がある。
- ・美術館に行くことや連携すること、さまざまな作品を鑑賞することが大切である。校内掲示も鑑賞の一部である。

オ 共通事項について

- ・内容項目はすべてやるもの。バランスよくやることが大切。
- ・身の回りにある美しさなどの価値を培う。

カ 造形的な視点から

- ・主体性，創造性，豊かな感性→子どもたちの将来に必要な資質→将来を見据えて育てる。

4 感想

造形教育において、自らの生き方を見つめ、豊かに生きる自分を切り拓く生徒を育むためには、生徒の主体性や創造性，豊かな感性を育むことが必要である。そのためには、「自分を見つめ直し、さまざまなことを自分で決め、自分らしく新たに何かをつくりだすことが大切だ」という基本的な考え方とおり、仲尾台中学校でのさまざまな授業の実践は、生徒が主体的に活動し、自分らしい考え方や表現を生みだそうとしている取組が見られた。また、生徒たちの豊かな感性や考え方には、未知なる可能性を感じさせられる場面が数多くあり、これからの造形教育にとって大切なことを改めて学ぶことができた。講演の中では、「指導者側が学習のねらいというゴールまでの道筋を作ってしまうのではなく、子どもたちがさまざまな手段でねらいに迫れるようにすることが大切である」という話に深く感銘を受けた。今回の研修を生かし、明日を育む造形活動につながる、子どもたちの将来を見据えた資質・能力を育てるために、今後も授業力の向上に努めていきたい。